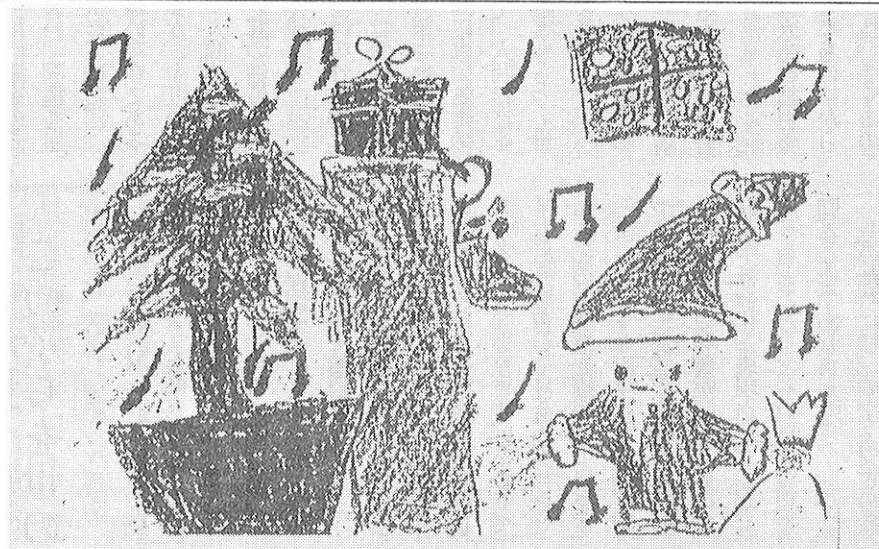


光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
編集／光の子 編集委員会
〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
TEL／0480-72-3883
振替／東京3-128022
印刷／(株)ドモン企画



1年 みなもと まさし

メリークリスマス！

神の謙虚

(ルカによる福音書二・七)

理事長 福島 勲

歴史家によると、紀元の初め頃イスラエルでは、十四年目毎に人口調査があり、男は勿論女、子ども・奴隷も皆数えられて、課税算定の資料となっていたといわれる。ヨセフもダビデの血統でダビデの町ベツレヘムで、この調査を受けたのである。

聖書でみると、このころイスラエルでは、本籍地に帰る旅人であった返していたと思われる。

小さい宿に幾人もの相客が泊り、臨月の婦人に与えられる特別のスペースなどはなかった。わずかにひとつ屋根の下の家畜部屋のお座であったろう。

とにかく、生れたイエスは飼葉おけに寝かされたのであった。イエス降誕劇の状況設定が定着し、われわれは何の疑念もなしに飼葉おけにイエスの人形を飾りつけて、クリスマスのお祝いをするのである。

神が人となったということ、こ

れ以上の謙虚の範例が他にあるだろうか。その上、家畜小屋での誕生から十字架の死まで、普通の人間にとっても起り得ないような出来事の中で、謙虚の限りをつくされる。

なぜ神はこうまでイエスに謙虚を強いられるのであろうか。

釈迦のような王宮での誕生ではないのか。毒を仰いで従容と死んだソクラテスのような死でも悪くはないのではなからうか。

神の子の誕生が世界や人生舞台の中央正面で起こらずに、舞台の袖のところの出来事である。

徹底的な謙虚の中で、われわれの罪のゆるしという最大の出来事が起こったのである。

この測り知れない神の恵み、謙虚はみ霊の導きによらねば悟り得ない。人は軽蔑の眼で見、疑いの眼で批判し、み目が正当に評価されることはない。

人は自らの品性で他を測り、下

この子らを世の光に

施設長 今関 公雄

司の勘ぐりや、衣の袖に鏝をのぞかせながら平和を装い、同権を主張して神の秩序を乱している。そのこと自体救済の存在である。ことを物語っているが、キリスト・イエスの謙虚は、人間の自意識でできない限りない罪の傲慢さを指摘し暴露している。

この神の謙虚は、神の作為的な独善的行為や独白ではない。人間に対する深い愛の計算された行為である。つまり客間にはいる余地のなかったその人が、人間存在を逆転せしめ、愛の真実をもって世に君臨されたのである。

人は舞台裏や袖の人々を無視し好んで舞台正面に立ち上がり、客間の上座に位置しようと、ひしめき合っている。

ひるがえって今、人生の舞台上に佇んでいる子どもたちの中からどのような人物が成長してくるのか、希望を繋いでいる。世に言う立身出世でなく、神のために人のために身を挺して役立つ謙虚な者の育成である。

神の秘められた業に望みをおくクリスマス喜びである。

救主イエス・キリストの降誕をお祝いするクリスマスも間近となりました。この世の真の希望である神の御子イエスの誕生は新生と曙光について着目させます。

光の子どもの家の歩みも十年一仕事の間点でもある五度目の年の瀬を迎え、その社会的意義を再考するものであります。あわせて子どもを養育して社会へ参与させることの重要性を痛感しています。

よく、ヒトと誕生して人間に育つと言われます。この間の人格形成や人間性の涵養が、子どもの人間化や社会化と表現されますが、

そのためには、安全・安定の欲求、愛の欲求、所属の欲求、自己尊敬の欲求が、自然なたちで充足されることが大切です。人類の歴史において、この役割を果たしてきたのが家庭であります。親子と兄弟姉妹など家族共同体は、

お互いの役割分担と相補性の中でこの自己実現の諸欲求を充足しています。

したがって、養護施設の養育は家庭替り親替りの仕事であり、人類の根本課題への挑戦でもあります。周知のように、子どもの養育はまことに手間とヒマがかかります。とくに、乳幼児期や低学年段階では、具体的に手をかける必要があります。手抜きは、確実に後日の歪みとして付けが回ります。

そこで、光の子どもの家では、保母が五名の子ともと寝食を共にした二世帯を一軒の家で構成し、男子職員も含めた三十四名で運営し、出来るだけ手を掛ける家庭的養育につとめ、子どもたちの持つ哀しみや寂しさを共有しながら克服しようとして励んでいます。子どもも大人も喜怒哀楽の交錯する暮らしのなかで、「生まれてきてよかった!」と思えるような時間を創り、情緒的安定を図ります。「親

の後姿を見て子どもが育つ」ことに倣っています。

ともあれ、無力な子どもが、肉親と一つ屋根の下で一緒に暮らし育つことができないことほど悲惨なことはいないでしょう。しかし、誰かがその養育を担わなければならない。養護施設の社会的意義は、親のする養育を代替する、落ち度拾いの働きといえます。

そして家庭不遇な「いと小さき者」としての子どもを、社会で自立させる営みには、「この子らを世の光に」との福祉思想が必要不可欠に思います。なぜなら、世界中のどんな子どもが福祉施設で養育されるとしても、最も弱く小さな者を尊重する社会は、全ての人を大切にする福祉社会に違いないからです。福祉の質が問われます。

光の子どもの家の経営は、家庭的養育を基準外の職員を補って確保しながら、職員の経歴に伴う処遇の改善、高校進学資金の確保、施設設備の整備などの諸経費の増加の中で、限定的状況下にあります。皆様の温かいお支えを重ねてお願い致します。

取材の余白 — 竹崎観世音寺 —

伊藤 通明 (俳誌「白桃」主宰)

秋麗のひと日、私どもは数台の車を連ねて島原半島へ向かっていった。島原に宿をとり、俳句を徹底的に作るという訳である。

途中、長崎との県境に近い佐賀県太良町の竹崎観世音寺に澤光謙師を訪ねた。光謙氏は当地の中談会の会長でもあり、俳句への造詣も深い。老師との出会いは、吟行歳時記の資料調査のため、当寺の「鬼祭」の取材に出かけたことにはじまる。

竹崎観世音寺は、奈良時代に行基が開いたと伝えられ、現在は真言宗仁和寺である。同時期、行基の足跡が北九州に多いが、これは東大寺建立のための募金が目的であったとされる。いわば、東大寺建設委員長としての役割であったという。このように分かっていると、つながってくる話がある。

「魏主倭人伝」にある伊都国(福岡県原野町)を見下ろす高祖山の西麓一帯に怡土城は奈良時代

の七十六年、太宰大式であった吉備真備に築城を命じたのである。

工事は難航し、近辺の糸島・早良地方の農民ばかりでなく、東北出身の農民の防人もかりだされたという。当時、中央では藤原仲麻呂が実権を握り、対抗戦半島強硬政策を主張して新羅出兵が計画されていたときである。怡土城は太宰府防衛の前線基地であり、外敵が糸島半島に上陸して太宰府を目ざしたとき、怡土城を攻略しない限り前進は不可能という立地の好条件があった。ところが、真備は工事半ばで、東大寺造営の長官を命じられて転出している。

建設委員長の行基と、造営長官の真備がどんな話をしたか興が尽きないが、筑紫や肥前のことが口の端に登ったことは間違いないだろう。ところで、竹崎観世音寺には秘仏がある。勿論、観世音である。唯、この開帳が、実に百年に一度と聞いて驚いてしまった。地域の

大部分の人は拝す事がないまま生が終わってしまう。私は思わず、

こぼろぎや

秘仏の鍵のありどころ 通明

と口にしてしまったが、老師によると鍵は仁和寺に保管されているそうだ。百年に一度、その鍵が届けられことになっているそうである。ちなみに、次回は三年後のことと噂してしまっただけだ。

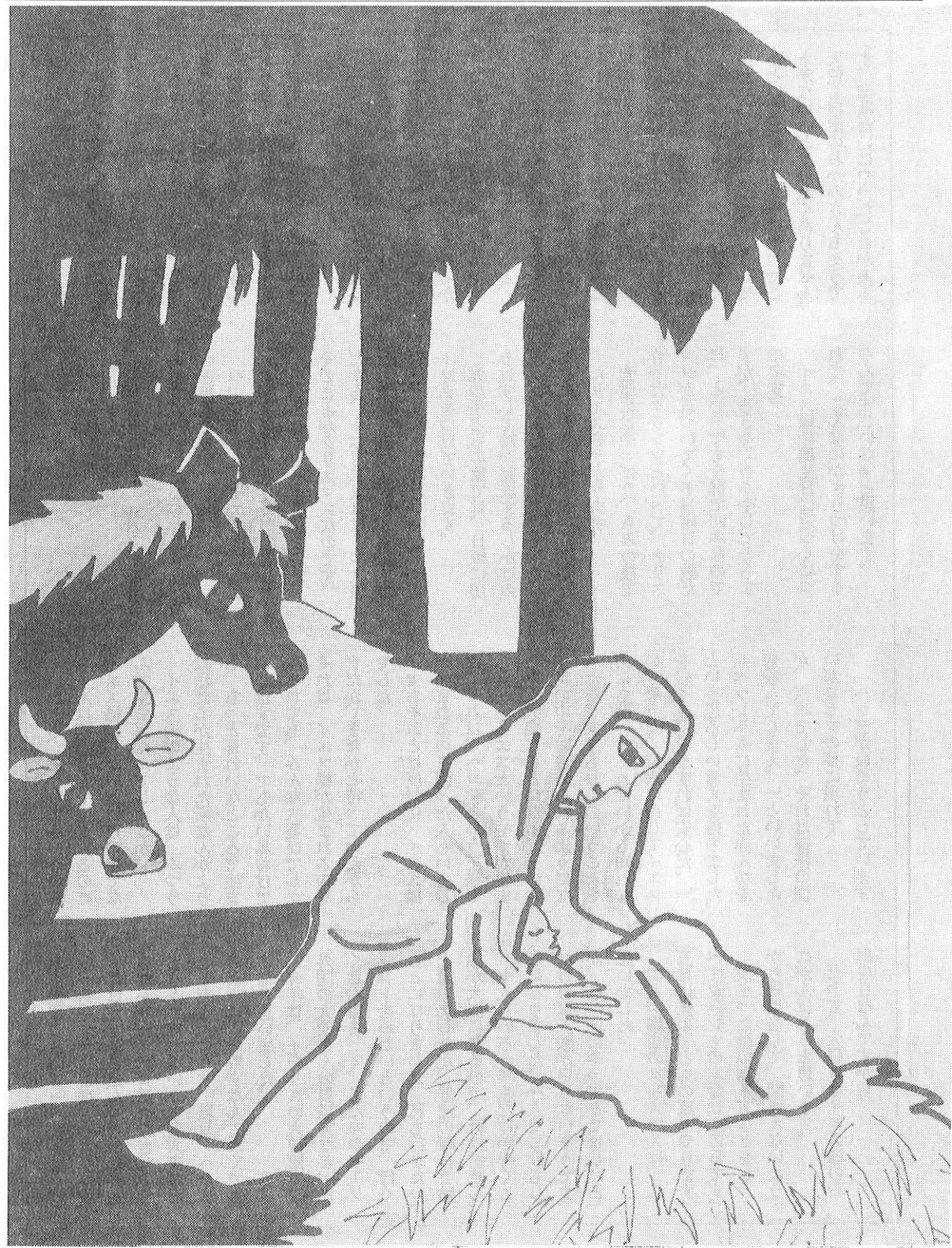
本寺で特筆すべきことが二つある。その一つは石造物である。六地藏・宝塔・有耳五輪塔・宝篋印塔など、中世に隆盛をきわめていたことを示している。これらのなかで、石造三重塔は屋根瓦や垂木など、木造の塔そのまますを石造におきかえ、高さ一・七米。鎌倉様式の格状間が彫られ、そのなかに蓮華文と孔雀文が彫られている。蓮華文と孔雀文を石塔婆にもちいるのは近江様式と呼ばれているが九州では特に珍しいという。文化的に注目されるぬえんである。さらに一つは、「鬼祭り」であ

る。「肥前古跡縁起」に「古故有て鬼祭と云例をなす事あり」として書かれているが、これが凄いだ。

正月五日の宵から六日にかけて若衆宿に精進の若者たちの荒業である。本来、東大寺のお水取りの行事と根を同じくするが、東大寺はお水取りだけになっているが、ここは殆ど全ての行事に継承されているという。口真似経や童子舞など仏教的色彩のなかに、寒中ばかりで鬼ぜめをする若者たちの苦行修業が加わって、全国にその例を見ない。

例年、必ずテレビで中継されるので、是非見ていただきたいものなのだ。あろうことか、寺を辞するとき私どもは老師より般若湯をいただいたのである。そのお蔭で佳句快作の続出となったのである。





虹の国から

もうすぐクリスマス

四年 森 光子

もうすぐクリスマスです。私はクリスマスが自分の誕生日だったらいいなあと思うことがたくさんあります。私はクリスマスが大好きです。どうして大好きかというと、

一つは、プレゼントがもらえるからです。

二つめは、毎年毎年やってきたページェントというげきをやるからです。それでなぜページェントというげきが大好きかというと、お客さんがたくさん見に来てくれるからで、このげきを喜んで見てほしいです。それに、私の好きな場面があるからです。それは、博士や羊かいがイエス様の前にひざまづくところです。

私はページェントの役は聖歌隊がいいと思います。どうしてかというと、マリア様は作ったことがないけどやりたくありません。天使も宿屋のおかみさんもそうです。聖歌隊はよかったことがある

ので安心です。だからまたやりたいたいと思うのです。

ページェントはイエス様の生まれる様子を歌とふりと聖書うたを合わせてやります。そして、そのことがクリスマスなのです。

だから、十二月二十五日はイエス様の誕生日にあたります。教会では毎週クリスマスに近づいただけローソクをつけていきます。

光の子どもの家では、日毎に切りはすして絵が完成するしかけのカレンダーもあります。そして、ドアのところには、もみの枝で作ったリースをかざります。

食堂にはやっぱり、もみの枝で作ったクラッツという、クリスマスが近づいてくる日曜日の数だけ、といっても全部で四本なのですが、ろうそくをふやしてとむのです。

イエス様の誕生日に近づくとつれて、こんなにがざりつけをするなんてすごいなあと思います。

けれども、どうしてふつうの赤ちゃんは病院などで生まれるのにイエス様は、かい馬おけの中でな

んて生まれたんでしょうか。

イエス様のような人は、ふつうは私たちが生まれた所なんかよりも、もっときれいなところで生まれるはずで、でもかい馬おけで

生まれても、みんな大喜びでした。それは、イエス様が生まれるのをまだか、まだかと待っていたから

でした。

でもそれとは反対に、イエス様が生まれるのを困った人もいま

した。それは、ヘロデという王様でした。「イエスというやつが生まれたら大変なことになる。そいつが世の中をおさめられるようにな

ったら、家来もわしのいうことを何にも聞いてくれないかも知れ

ない。そうだ、家来に命じてイエスを殺そう。そうすれば安心だ。」

という恐ろしい考えを持ちました。「ベツレヘムに生まれた赤ん坊を皆殺してしまえ。」といいました

が無事でした。それは神様の使

いがヨセフの夢に現れて、

「ヘロデが殺そうとしています

早く逃げなさい。」と教えてくれたからです。こは、ページェントにはでけません。このまま知らなかったらヘロデに殺されてしまつかも知れないとても大事なところだと思ひます。私は、ヘロデのように人を殺すなんてよくできるなと思ひました。

今年は、イギリスの大使館で、外国の大使さんの奥様方などがたくさん集まって、私たちのページェントをみたいというので、行くことになりました。私も行きたいと思ひましたが、普通の曜日で勉強が大変になるので、行けません。

七人もいる一年生だけが行くことになりました。一人で二役もしなければ人数が足りないそうです

が、りっぱにやってきてほしいと思ひました。

でも、本当のクリスマスは、二

五日に光の子どもの家でやります。

ページェントの本番はこの日です。決まった役の動き方などをしっ

かり練習をして、間違えないよう

にがんばろうと思ひます。

だって、大好きなイエス様のお誕生日なんですから。

現場から

輝きのかたち

その十

池田 祐子

ちょうど一年前、年長組だった

溪子ちゃんはピアノに夢中でした。

幼稚園の先生のピアノを弾く様をじっと目を凝らして見入っていました。

家に帰ると幼稚園で覚えた曲を

「ミ・ミ・ミ・ド・レ・ミ・ミ・」

と口ずさみ、鍵盤の上で指を動かします。それは、それは軽やかだったの、溪子ちゃんには天賦の才能があるのでは、と期待せずにはいられませんでした。

朝から晩まで、ピアノを弾いて、ついには食事の時に空いている指を動かして、布団に入ってもまだ指を動かしています。とてもたのしそう

な表情で・・・

溪子ちゃんのピアノへの興味について、職員会議でも話し合い、「ピアノ教室でレッスンを」という意見もでました。しかし、私は「いいです。私が見ます」とその意見を撥ねつけていたのです。満足にピアノが弾けない私なのに。

結果は言うまでもありません。

ピアノ教則本を求め、溪子ちゃん

と一緒に練習しましたが、そう長くは続かず、いつの間にか絶えてしま

りました。

しかし、その後も「ピアノ習いたい」と口にして、興味を持ち続

けていた溪子ちゃんです。

それにも「う、うん」と曖昧な返事を繰り返しているうちに溪子ちゃんのピアノへの興味は減退してしま

ったようです。

今年度、習い事をする子どもが親の援助などもあり、剣道に十名、ピアノ教室へ二名、スイミング・

スクールに一名とそれまでの二倍

を超えました。毎年九月にする個別

別養護計画の見直しでも検討され、

☆親や家族と一緒に住めないこと

でのダメージを受けた劣等感、

施設入所での不安と絶望の劣等

感、施設から通学していく(社

会へ出る)時に受ける差別の意

識等による劣等感などの輻輳す

る中で暮らしている子どもたちが

が、他の子どもたちと伍して学

校生活をしていくには、得意な

何かを持っていることは大いに

力になる。その一つとして習

い事をとらえる。

☆必要な習い事などを子どもの興味や関心などを手がかりにして

可能な者から実施していく。

☆スペシャリストの養成ではない。☆法人も実現の努力をしていく。

などを確認しました。

この職員会議のなかで、溪子ちゃんについて、私のとった関わり

は、状態や要求を充分把握せず、

興味や関心を成長に展開していく

見通す目を持たなかった担当者の

エゴイズムによるものだったと何

度も反省し、後悔しました。溪子

ちゃんの中に生まれた可能性の芽

を「担当者」という権力のもとに

摘みとってしまったと言え、全く

弁解のしようもないのです。

小学一年生になった溪子ちゃん

のことが職員会議などで話し合

われる時、「何が溪子ちゃんの得意

なことなのだろう」と考えます。

ただでさえ、父も母の顔さえ知

らず、乳児院で育ち里親に養われ

今、光の子どもの家で生活してい

るハンディキャップを背負って学

校に出ていく溪子ちゃんです。せ

めて「これだけは大丈夫!」と胸

を張れるものがあつたらどんなに

心強いことでしょう。

「剣道をやらせてみたら。」と

提案されたりもします。中々ピ

アへの興味のように夢中になるも

のが見当たりません。そうこうし

ているうちに一年生も残り僅かに

なっています。

「ねえ、ゆう子さん、私、なわ

とびで一番になったんだよ。そし

て、この前はマラソンでクラスの

女の子で一番にもなったよ。」と

嬉しそうに話してくれる溪子ちゃん

です。幼稚園の時から上手な

わとび、速かったマラソンです。

「すごい!」とたくさん誉めま

す。もしかしたら、手がかりに

・・・など甘い考えを抱きながら

こんな愚かな担当者ですが、子

どもたちはすくすく育ちます。

愚かさを悔い、今日も祈ります

「どうぞ、私をゆるし、子どもた

ちをお守りください!」と。

現場から

暮らしの風景

4

石毛 照子

自然の色彩は時間とともに確実に変わりつづけ、たくさん恵みの実が結ぶ季節になりました。

どんぐり、山栗、そして、時には、ススキの穂先などが子どもたちのポケットをふくらませます。

子どもたちはこれから、どんな実を結ぶのか、不安や期待がないまぜになって生活を彩ります。

去年は末っ子の珠弥が大病で入院したことで実現しなかった、紅葉狩りを、佐藤家の皆が揃って日光に一日遊びました。

佐藤家は何か職員の動きが多く、この春にも秋元保母が原田家から担当の子どもを連れて引っ越し、夏休みが過ぎて、やっと生活のリズムが出来上がり、落ち着きを見せ始めていました。

佐藤家が全真揃っての外出はこれが初めてのことです。

この春から私の担当に加わった潔はとても喜びました。「富士山にも行きたかったな。来年も行く

の？」と富士山の話が出る度に、ちょっとうらやましがっていたのです。でも今度は一緒なので、朝から大はしゃぎです。普段も声の大きい潔君、車の中で「静かにして！」と叱られるのもしばしば。

中禅寺湖で遊覧船にのり、震えるような寒さに身を縮めて、正に錦秋の山々に見惚れました。

湖畔でお弁当を食べて華やかなも回りでしたが、子どもたちが最も喜んだのは、湖畔の山道の散策の時でした。ただ何となく歩くだけのことで、子どもたちには何の制約もなく、自由に何でも出て、何でも遊びの道具になりました。遊びの対象になるようでした。

鷹文が折れた棒を刀に見立て、時代の剣豪になってチャンバラを始めます。「潔、やろうぜ！」潔も負けない剣豪になって「おう」と応じます。時折、「コテ！」などの「メン！」などの気合もかかります。日頃の剣道の練習で、なか

なかつこい少年剣士ぶりです。珠弥は、「ちょっと待って、」と立ち停まり、小さな手を空に伸ばして真っ赤な葉っぱを採ってはニコニコ、黄葉を採ってはニコニコ、「ホラッこれなに？」と木の葉を見せます。葉っぱのような手にきれいな紅葉の色が輝いています。ニコニコしながらゆっくりゆっくり歩きます。

潔や鷹文たちは、もう両手に棒きれをもって二刀流の達人になりきってチャンバラも佳境に入っています。

先に行った機嫌不機嫌が激しいが、今日は飛び切り上機嫌の直之さんたちの「おーい、バスがきた来たぞー」という大声で、浸っていた自然から、一気に呼び戻され、鷹文や潔は持っていた棒き切れを捨てて駆け出していきます。

数日間、紅葉狩りの話で食事の時間が長引いてしまふ日が続きました。

潔は相変わらず大きな声で、「あの滝すごかったよな、上から落ちたら・どうなるかなー」と自然の素晴らしさを反芻します。

今日も、学校帰りに、張り切りすぎた潔が、「足がドロドロになっちゃったー」と玄關からあがれません。天気の良い日はいつもこれです。雨が降ると、どういわけか、傘をさしても全身びしょり……。

自然と遊ぶのもタイヘンなことだ、とさえええられてしまっています。

時には、両足全部を泥んこして帰ってくる潔の姿を見ながら、一緒に寝起きし、食卓を賑わせながら、やっと半年、これからたくさん色々なことがあって、怒ったり喜んだり、泣いたり笑ったりしながら、たくさんたくさん伝えなければならぬことや、共感できる時間や空間をつくり出さなければ、思っているところです。

前の担当の方からも手紙などを頂き、たくさんの人に励まされ、期待され、がんばっている潔君。今年こそ、熱や風邪に負けないでがんばりましょう、ね、潔君。珠弥が採ってきたきれいな葉っぱは、部屋のドアを今も秋の彩に飾っています。

養護メモ24

自立

その七 入野隆の場合5

菅原 哲男

隆がこれからどうなるか、とても心配だった。父親の、約束を果せないこと、六年間もの引き取りの延期の謝罪をし、告げたいことを受け入れることができるだろうか。自暴自棄になって学校でもとひとくなるのではないかと。

この時期は、夏休みに一人でも多くの子どもが家族と関わりを持ち、家に帰れるようにと願って家庭訪問を実施して、光の子どもを空けることが多く、時折出先から電話で隆の様子を確認し励まさないではいられなかった。

また、五年目を迎えた激しい取り組みで、職員たちの疲労の度合も目に見えるようになり、夏休みに備えた一週間弱の休暇が担当の竹花保母に回って来ていた。

同じ原田家の池田とも話し合い予定通りに休暇に入ることにした。子どもたちが持つ様々な課題への取り組みのヤマ場は、四十日間におよぶ二四時間まるごと暮らし

合つ、夏休みだと考えたからだ。ケース記録を抄録する。

○六月二十三日 おとこの「宣告」の影響を心配する。今のところ落ち着いている。弟の方が揺れている。朝早く菅原先生の遠い所からの電話を受けていた。心の中は判らないが、まともに話せばそれに対応した行動ができる。

○同二十四日 本日より担当者が休暇。夕食時、剣道で年長の中森兄妹がいな。他の子どもに「ちゃんとしろ！」などと頑張る気持ちがヒシヒシ伝わる（記録池田）

七月一日 「今日、先生をけつとばしちゃった」とスゴイせりふをニコニコと保母に報告。「エー」と驚く。が、とても柔らかい表情で、「だってオレのことくすぐるんだもん」「オレのこと、いい子だね、いつもこうだといねえ」なんて云うんだ。何でかなあ」と云う。「おりこうさんだといねえ」ということだよ」というと「ソウ

カア」と頷く。隆が受け入れられた事が、とてもうれしかった。

○七日 実母の隣より電話。実家の両親や家族と相談をした。隆緒とやり直すことは絶対ない。子どもたち、光の子どもの家などとの連絡や関わりを断ちたい。

世話をしてくれる人がいて再婚の話もある。という大要だった。

○九日 入野宅訪問。隆緒不在。祖父母に電話の旨を伝え、今後の方向を父と話し合うように伝える。

○十二日 授業参観。父の隆緒に連絡したが返事はない。親子で給食をする試食会も予定されている。隆には「信恵さんが行くからね」というと安心した顔で登校。時間ギリギリで父と連絡がとれ、最も嬉しい父親の参加が実現した。試食会ではベタベタに甘える。

「牛乳を飲んだらミニ四駆を買ってあげる」との隆緒の約束から光の子どもの家に帰り、父親が帰る時に「ミニ四駆を買って、買って・」と大泣きの別れとなる。二二日 終業式。隆の一学期が終った。いろいろあったがよく頑張ったと深く思う。通知表の学習面

の評価は一学期はない。行動面の評価はマイナスだけだろうと思っていたが、「進んで仕事をする」という欄の「よい」にマルがあった。誉められるだけ誉めた。ニコニコしながら見せ歩いていた。

「先生、せめて励ましの一言を」という大きなタイトルの投書が八月十六日付朝日新聞に載っていた。二年生の娘の通知表を、成績よりも教師が娘をどう見ているかに興味を持っていた母親が、成績も悪く、通信欄に悪いところの列記と自分の望むような子になってほしいことだけが書かれた通知表に衝撃を受け、子どもの意欲には、認めることが大切なのに、どうしてたった一言誉め、励ましてはくれなかったか、と訴えていた。

隆はたった一つのよいがあつて竹花や大人たちから誉められた。一般に、学力や生活能力の少ない、未発達の子どもの養護施設に多いことは事実である。それまでの育った環境の影響だろう。もう一つ、教師の、施設や入施設の子どもへの感情や評価が大きく影響することもある。（この項続く）

日誌抄

八月十一日
十月十五日

八月十日 夏期行事第五弾！佐藤家、富士登山行。夜遅く出発。

静岡の駿東学園のご厚意で、空いている職員宿舎をベースにして、千葉指導員の厚いもてなしを受ける。富士山頂に立ったのは六年生の睦男君と坂巻指導員。

十一日 夏期行事第六弾！仙道家が又々昨年に続いて湯河原の府川さんご夫妻と戸部、篤ご夫妻などのご厚意で、西湘の海を満喫の三日。波とお友だちに。

おかげ様で帰省出来ない子どもたちも素敵なお盆になりました。

○この頃からお盆の帰省が始まる。夏休み前の多忙に多忙を重ねての家庭訪問の成果が・・・。

十三日 浦和の鈴木様、このところ定番の、季節の果物をメインのご支援。今回はスイカに、残っている子どもたちと歓声。板橋の石井さんからは衣類！感謝。十五日 敗戦記念日を覚え、一汁一菜の食事。永久平和を祈る。○加須市花火大会へみんなです。

二五日 天文学者になりたいと云う六年生の中森君のためにと、

申し込んだ素晴らしい天体望遠鏡が、(株)ビクセンより。宇宙に心踊る夜が・・・感謝。

二八日 いつも月初めにお出で下さる江森理容店主のご奉仕。みんなスカッとして新学期を、とのころ遣いに改めて感謝。

三〇日 ボランティア・グループ「アップルクラブ」のドッグシヨウと「紙風船」の紙芝居。

○夏休みの成果を確認し二期へのガンバリの決意を表明する、さよなら夏休み大バーティを園庭でバーベキューと歌声と花火で・・・二期もガンバルゾ！

○東京のオーケー・スーパーよりの椅子とテーブルが、施設建設当初に建具屋さんが尺を間違えた戸板に脚を付けたテーブルでのダイニク・ルームがレストランのようにになりました。感謝。

九月一日 第二期が始まる。一回り大きくなった真っ黒な顔が元気に登校。更なる成長を祈る。○栗原忠氏より毎月の慰問とお励まし。ありがとうございます。

三日 町内の青鹿氏より献品。

四日 第二〇回職員会議。この

年度の子ども一人ひとりの成長の願いの個別養護計画も年度半ばとなり、ズレなどの調整のための見直しをこの週から開始。

十四日 福祉施設と地域問題研究会の方々来訪してインタビューと意見交換の刺激的三日間。

十七日 東大宮教会学校野外礼拝を光の子どもの家で。いつも、「ふしていただく」わたしたちがもてなす側に。豊かな一日。

二三日 ピエロさんよりパンを。

二四日 町内の稲葉さんより献品。

二五日 栗橋町目黒さんより献品。

十月一日 小学校運動会。顔の汗がキラキラ美しい一日でした。

八日 幼稚園運動会。お父母さんたちが来て楽しい一日にち。

○地区運動会でも秋元、中村、坂巻などの職員と子どもたちが大奮闘の一日でした。

十日 虹の会が清水公園へ、GOGO会が東松山森林公園へ、幼児は利根川で楽しい祝日。

十一日 飯能市児童民生委員の方々が見学に来訪。(く)

反射光

夕方、五時に町内会のチャイムが鳴る頃には、ちよ

と離れると顔の見分けがつかなくなり、そんな夕に移の可憐な花と空には明りが残っています☆今年もあと少し、時の過ぎ行く速さに驚かされます☆おかげさまで、今年も子どもたち、職員たちともども元気にガンバルことができました。こんな弱小の法人で、基準外の職員を三名も確保できたのは驚異といえます。ご支援と祈りに、どんな感謝をすればいいのか言葉を探せません☆夏休みの前に立ち寄って男手不足を助けてくれた五木田が九月に職員になりました☆来年度の職員募集を各大学にしました☆警官に飽き足らず非行の面から子どもの問題を考え大学に求職していた檜山がボランティアでガンバッています☆不思議な出会いを感じます☆その不思議に答えられるように働きが聖められるよう祈ります☆もう街はクリスマス☆本当のクリスマスは光の子どもの家にも！祈りつつ、励みます。ご支援を、更に！(哲)